

ホストファミリーとの問題

(Problems with Host Families)

アリエル・デイヴィス

Ariel Davis

82-272 Intermediate Japanese II

私はホストファミリーとの問題について書こうと思う。そして、日本の文化と米国の文化を比較するつもりだ。将来日本に留学をしたいし、その間にホストファミリーと一緒に住んでみたいから、ホストファミリーに迷惑をかけないように、よくあるホストファミリーとの問題を学ぼうと思う。

まず、日本では、ホームステイしたら、ホストファミリーのお母さんにいつも報告させられることを覚悟したほうがいいそうだ。出かける時に「お昼どうする?」、「お金を持っているの?」、「いつ帰ってくる?」などという質問がおそらくどんどん聞かれる。後で状況が変わって帰る時間が遅くなると、お母さんに連絡しなければならない。何時までに帰らないといけないと言う「門限」もある。次に、ホストファミリーに報告だけでなく、ホストファミリーからの助言も言ってくる。歩きながらアイスを食べた

り、靴を脱がないで家に入ったりすればお母さんに叱られるに違いない。そして、知らない人との関係が面白くなるかもしれない。ジロジロ見られたり、突然英会話を頼まれたり、自分の日本語で伝えた問いに対して日本語で答えてくれなかったりすることが十分有り得る。最後に、教科書によると、もしも日本語を話そうとしたときに間違えれば、相手はそのミスを知らせておくだけではなくて、笑ってくるそうだ。しかし、その笑いは意地悪という意味ではない。言語のミスはおかしいと思っているだけだそうだ。つまり、笑っても、結局応援している。

米国では日本と違い、お母さんが大学生のことをそんなに気にしない。もちろん大学生のことを気にするけれども、日本のお母さんほど毎日一部始終報告を求めたり、門限を決めたりしなさそうだ。米国では大学生は独立した人間だと考えられているから、門限などは日本ほどない。そして、外国人が留学しに米国へ来たら、あまりジロジロ見られない。外国語（この場合、英語じゃない言語）を練習したい人が日本ほどいないから、突然「あなたの国の言語で一応ちょっと話してもいい？」と聞かれる可能性が低い。でも日本と同じく、米国でもお母さんが自分の子供のふざけを見ると叱る。そして、私の経験で、英語が完全にわかっていない人が英語を話そうとして間違えたら、笑

う米国人が少ない。大体ミスを知らせるだけだ。それとも、その米国人は自信がなくてミスを知らせたくなければ、何も言わない場合もある。

この文化比較について、スピーキングアシスタントのおもりさんと日本からいらしゃった日本人との二つの会話をいただいた。おもりさんによると、ホストファミリーのお母さんは確かに助言を言ったり、質問を聞いたり、門限を決めたりして、米国の留学生にとって面倒臭くなるかもしれない。しかし、特別会話セッションの皆様によると、日本人はいつも世話をしたいから、こういうことをするのだ。それに、留学生がくるのは、多くの日本人にとって珍しいから、全部がうまくいけるように、努力する。それで留学生もホストファミリーも最高の経験がもらえる。もし門限が決められたら、留学生が嫌な気持ちを感じるが、それもうまくいけるようなことと考える。次に、日本人が外国人を見ても、突然話しかけたりしないだろうとおもりさんが言った。そして、特別会話の皆様は、今でも外国人が日本に行くと、ジロジロ見られるかもしれないのだが、大都市では外国人がいくらでもいるから、あまり見られたりしないそうだ。最後に、おもりさんによると、日本人は外国人の日本語の間違えに対してあまり笑わない。もし仲が

いいのならば話が別だが、普通に間違いを知らせて、励ますだけだ。むしろ外国人がまったく間違えないと、とてもすごいと思われている。

日本に留学してホストファミリーと一緒に住んだら気をつけないといけないことがたくさんありそうだ。日本のお母さんの質問や助言などが確かに面倒臭くなるかもしれない。でも、私はあまり夜遅くまで居酒屋などに残る予定がないので、門限などは問題なし。そして、ホストファミリーのお母さんからの質問や助言などは、日本語を練習する機会もあるし、それもあまり気にしないだろう。それに、私の意見では、何かが米国で普通でも日本でダメだったらしてはいけないというのは当然だから、お母さんからの文句は必要だけでなく、勉強になる。そして、米国のほうが日本より様々な国から来た人が住んでいるので、外国人はあまりジロジロ見られたりしない。日本では話が別だ。結論として、日本と米国の文化は、外国人がどんなに珍しいかによって、多くのことが違う。